

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 13日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271402093		
法人名	有限会社 たすかる		
事業所名	グループホームたすかる		
所在地	長崎県南島原市深江町戊 2975-6		
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果市町受理日	平成26年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

身体機能の低下を余儀なくされる利用者様の心の拠り所として観音様の御堂を建設し、毎日参拝される利用者様がいらっしゃいます。住宅街の中にホームがあり隣は保育園で利用者様と園児がお互いに交流できる関係にあります。挨拶と笑顔を大切に利用者様に満足していただけるようなサービスを目指し日々奮闘しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

職員が力強い笑顔で入居者に元気を与え、親しみやすい会話をしており、入居者が生き生きと会話を楽しんでいるのが印象的なホームである。A棟、B棟はそれぞれ入居者の状況に違いがあるがどちらも、入居者に楽しんで生活していただけるよう、希望に合わせて外出を多く行ったり、ホームでできるレクリエーションや食事を充実させたり、入居者本位の支援をしている。重度化により寝たきりになったり、困難な状況にある入居者もお一人一人を見つめて大切に支援していこうという意気込みと実践が見受けられた。近隣の保育園や自治会と良好な関係が築かれていて、地域の中の一つの家として受け入れて頂いており、ホームが

主催する「敬老会」は近隣の方も含めて毎年 100 人ほどの参加がある。園児、家族、近隣の方、職員による楽しい出し物があり、親睦を深め、入居者にとっては家族と共に楽しむ貴重な時間となっている。法人として入居者の幸福の追求を支援し、地域の安心、安全を担い、また職員を大切に育てていきたいという姿勢があり、職員も支援の充実のためのレベルアップに向けて意識を高め、自己研鑽に努めている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも挨拶と笑顔を絶やさないように心がけ、利用者様の心に寄り添い満足していただけるように、職員間の連携を取り、日々勤務している。	「老いても障害があっても、地域の中で生き生きと安心して生活できるサービスを目指す」という理念に沿って、それぞれ違う困難な状況にある入居者お一人一人を真摯に支援している。寝たきりの入居者にも慎重な配慮をしながら、初詣に出かけて新年の喜びを感じていただくなど、いつまでも生活の中に喜びが感じられるよう支援している。職員の笑顔や親しみやすい態度は、入居者の元気の素となって入居者の会話を弾ませている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方、近隣の方に敬老会の招待や避難訓練の時参加いただいている。また、近くの保育園の行事に参加している。	入居者や職員は地域に馴染みがあり、近隣の方が入居者に声をかけに立ち寄られたり、野菜を頂いたり、自然な付き合いができています。自治会には敬老会、避難訓練の参加など積極的に関わって頂き、また古新聞を頂いたり日常的に関係を持つことができています。近隣の保育園とも夏祭りや敬老会や保育園の行事を通じて相互交流ができ、入居者の楽しい時間となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方について質問を受けた時、分かり易く説明したり、認知症の方の特性について資料を用いて説明しているが、地域貢献には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告された事を、ミーティングやケア会議等でも報告し、サービスの向上につながるように話し合っている。	運営推進会議は行事予定として年間計画に組み込んで、必ず6回開催できるようにしている。和気藹々と世間話もできるような雰囲気で開催され、自治会長や民生員といった地域の方や家族には地域の情報を頂いたり橋渡しをして頂けており、地域の清掃活動参加の際のアイデアをいただくこともあった。敬老会を撮影したDVDや、たすかるDVDを作成し、会議の中で視聴会を行っている。	

5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が、民生委員や包括支援センターを定期的に訪問した際や運営推進会議の際、情報交換を行っている。	運営推進会議メンバーとして島原地域広域市町村圏組合から参加頂いて、ホームや入居者の現状を知っていただいている。代表は普段から広域に顔を出して相互の情報交換を行っている。また、役所に書類を提出する際には入居者も一緒に窓口を訪れて顔見知りになれるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアの取組みに努めています。利用者様の安全を図る場合、禁止の対象となる事案については、職員間で協議し、正しい理解と見直しを行っている。	身体拘束はしない方針である。骨折での退院後、ベッド柵と鈴を使用している入居者がおられるが、家族との相談のうえ状況を見ながら期間を決めて行っている。ベッドからのずり落ち防止を布団で工夫したり、「待って」「ダメ」という言葉は極力使わず柔らかい言葉で説明し、他の職員と協力するなどして拘束の必要な状況を作らないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修での資料や虐待に関する記事が出た場合は、職員へ回覧し、職員一人ひとりが虐待を見過ごす事がないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して学ぶ機会が持てたが、話し合いや活用にはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の提携・解約等に関しては、代表・管理者が十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、利用者や家族に面会時等に相談・意見・要望等伺い、職員間で話し合い日々のケアに活かせるようにしている。	運営推進会議に家族の参加があったり、毎日面会にみえる家族がおられるなど、家族と顔を合わせる機会が多く、意見の伺いやすい環境ができています。敬老会には家族の参加も多く、一旦規模を縮小した敬老会が家族の声を受けて、公民館を借りての大規模開催となるなど家族の意見が反映された。また、匂いに気を配っている事をご家族に褒めていただくなど、嬉しい言葉は職員の励みとなっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	良い意見や提案と思われるものは、反映されている。	代表や管理者は職員が「自分で考え動ける」人材となることを希望しており、職員は自分の意見を持って会議の場で話をしている。記録の形式については職員で話し合い改善が行なわれ、また職員から駐車場の整備の希望が出されて照明等の設備が増設された。代表が毎日ホームに顔を出して、ホームの出来事や状況を尋ねられるので意見を出しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績・勤務状況は把握されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの学びを大切に、研修参加の意義を伝えている。研修を通して学んだ事について、資料を回覧したり、ケア会議等で話しあい実践につながるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会に参加して知り合う機会があり、同業者として馴染みの関係を築くことができ、新しい情報や相談をする機会がある。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に自宅に訪問し、本人・家族より色々な困り事等の話を伺いパンフレット等を使用しながら、安心して入居できるよう説明を行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況も同様に伺い、入居後も面会やその他の折、相談・意見・要望を伺うようにして、ケアプランに反映するように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズや相談内容により支援方針を決定し、その方針に沿った支援に努めている。		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の趣味や作業と一緒にいき共感し、共に喜びあったり教えあったりして、日々の生活を支えながら過ごしています。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度お便りを出し行事の写真等を同封したり、面会に来られた際には日々の様子を報告し、共に一緒に支援している関係に努めている。		
20	8 ○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等で要望を頼まれた場合には支援し、行きたい所がある場合はできるだけ要望に沿うように支援しています。	家族や知人の訪問の際はお茶を出し、ゆっくりと過ごしていただけるよう気を配っている。普段から家族や知人に電話をかけたたり、かかってきたりすることも多く職員が取次の支援をしている。入居者から「美容室に行きたいから電話をして欲しい」や、「自宅に帰りたい」など希望があり、家族に繋いだり、職員が支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケを行ったり歌番組を見たりするのが好きな方が多い為、利用者・職員が共に歌ったりして関わり合い、支え合う関係作りに努めています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方もいつまでも支援できるように、居宅・訪問の担当者が自宅に伺ったりしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	細やかな状況把握に努めています。基本情報をもとに課題分析し、現状の理解に繋げている。	普段から入居者と職員は和気藹々と会話が弾んで、その中で思いが把握ができています。日常生活の中で常に行きたい所や食べたいものなど伺っており、それをきっかけに話が広がることもある。また入居者の仕草や表情での把握もしている。重度化で気持ちを表現されない入居者が車で出かける際には、生活歴から行きたい場所を推測し遠回りして景色を楽しんで頂くなどしている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、大切にしている事の情報ケアプランに反映して、サービスの利用経過等の把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や訴え等に傾聴し、見守りの中で心身の状況把握に努めて支援している。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望や職員の意見を取り入れた介護計画の作成に努めている。十分に要望に答えられない時があるが、話し合い現状に応じて見直しを行っている。	ケアプランはケア会議において全職員で話し合い、計画作成担当者が作成している。職員は個人記録に入居者の思いやニュアンスも含めて伺えた言葉を記録しており、またプランの実施状況も詳細に記載している。ひと目で支援の状況を把握できるように、工夫した記録用紙を使用することがケアプランの明確化や確実な実施に繋がっている。プランは家族にも確認いただき、意見を伺っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に言動・行動・摂取量・排泄・身体状況を記録し、モニタリングシートを活用する等して、職員の情報共有・ケアプランの作成・見直しに活用しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・家族の状況・要望に応じて通院支援・買い物支援等の個別支援を行っています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流少なく、現在のところ協力できていない。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、いつでも適切な医療を受けられる様に支援しています。	職員が入居者の以前からのかかりつけ医への受診を支援し、家族に報告して情報を共有している。また協力医の往診もあり、健康管理や相談ができている。重度化に伴い医療機関との密接な連携が必要になってきた入居者もおられ、かかりつけ医の協力が充分に得られる環境づくりに向けて、かかりつけ医の変更なども含め家族から相談を受けたり、話し合いをして支援している。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の気づきがあればすぐに看護師に報告し、適切な受診・看護がうけられるように支援しています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合様子を観に行ったり、家族より治療状況を伺ったり、入院療養計画書を見せていただき治療の把握に努めたり、医療関係から説明を受ける際家族と同席して内容の把握に努めています。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共通支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には看取りに関する方針をお伝えし同意を得ているが、現時点では看取りを行った事が無い。終末期の在り方について家族、主治医と話し合い、ご本人の希望に沿えるよう支援していきたい。	現在看取りを希望する家族がおられ、看取りに向けてかかりつけ医を、充実した協力の得られる医師に変更するなど、支援に向けて実的な対応を行っている。また看取りに向けて職員間で話し合い意識の統一を図っている。これまで胃ろうやストーマや透析の入居者を支援しており、職員は希望があればできるかぎり家族のような気持ちで支援したいとして支援の充実とレベルアップを図っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の方から蘇生法の講習を年一回定期的に受けている。急変や事故発生時のマニュアルを確認・把握しており、統括より指導、助言を受け実践力を身に付けている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えて非難訓練を実施しているが地震・水害においては実施できていない。地域の方を交えた訓練ができるように協力体制をとっていきたい。	年2回、消防署立ち会いのもと入居者も参加して避難訓練を行い、また地域住民にも見守り役として参加いただいた。消火器の操作は職員全員ができるよう訓練を行っている。夜勤の職員が毎日防火点検を行い、また毎月危機管理チェックリストを使用して火災の可能性の排除に努めるとともに、職員の意識付けを行っている。ホーム至近に居住する職員もおり緊急時すぐに駆けつける体制がある。	現在準備されている持ち出しファイルに入居者の全身写真を加えて充実させ、車椅子やシルバーカー等必要な用具もひと目でわかる情報とされることを期待したい。た、備蓄品としてレスキューシートや使い捨てカイロ、コンロなど暖を取るのに役立つ品の準備や、備品の充実や備蓄食品の消費期限把握のため、一覧表による一括管理が望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心を大切にし、声掛け等には、わかりやすい言葉で話すよう心がけて支援を行っている。	「歳を取ればわがままになる。そのわがままをすべて受け入れましょう。」という社長の理想を職員は理解し、実践に近づけるよう努めている。お名前をさん付けで、尚且つ入居者や家族が喜ばれる呼び方でお呼びしたり、一線を守りながら堅苦しくない家族のような支援ができるよう心がけ実践している。入浴や排泄の支援ではどのような場面でも羞恥を感じられないよう、職員が落ち着いた態度で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	掃除や洗濯物たたみや食事の準備等作業がある時には、声掛けし自らの意思で作業が行えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンが身に付いており、殆ど同じ時間での生活である。時には体調の変化で食事の時間が変更になったり、散髪の希望があれば取り入れ可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれができる方は、洋服を選んでいただき、できない方へは職員が支援しています。また化粧をする方、化粧の支援をしている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳・お茶の準備等の、できる事を選んで一緒に行っている。職員も同じ食卓で会話をしながら食事をしている。	職員も間に入って賑やかに楽しく食事をしている。入居者が食事の手伝いや漬物、干し柿、切干大根づくりなど先輩として力を発揮して下さり、充実した食生活となっている。ホットプレートでお好み焼きや焼きそばを作ったり、バイキング形式にしたり外出の難しい入居者も楽しめる時間として活用している。食欲のない入居者にはおにぎりにして佃煮を添えるなど、食事スタイルを替える工夫をして対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は個々の状態に合わせた量を盛り付けし、摂取量の記録を行い把握している。献立は担当者が栄養面を考え、バランス良く献立を立てるように工夫している。		

42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様の状態に応じて、できる方は自分で行い、できない方は職員が介助を行いながら口腔内の清潔に努めています。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄の状態をその都度記録しながら、自立にむけて個別の排泄支援に努めており、利用者様の様子を見ながらさりげなく声掛けし排泄誘導を行っている。	入居者と職員の信頼関係が築かれ、安心して過ごせる環境の中で適切な時間誘導を行っている。オムツ使用からリハビリパンツ使用になる方もおられ、また失禁がなくなるなど、無理をしない支援で自然と自立に向かっている。日中リハビリパンツ使用の入居者の夜間の頻回な排泄にもその都度敏感に対応して、リハビリパンツで過ごせるよう対応している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因を考え、水分補給を促したり、繊維の多い食材を取り入れたり、体操や運動を取り入れて取り組んでいます。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週三回の入浴日を設けており、順番等も不公平にならないように配慮しながら支援している。入浴されない時には、清拭・陰洗を行っている。	予定された入浴日以外でも入居者の希望があったり、通院の関係や、汚染の際などには柔軟に対応して清潔保持に努めると共に、気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。ゆず湯などで季節感を楽しんでいただく事もあり、話が弾んだり、唄を歌ったりリラックスした時間となっている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた生活習慣に応じて、就寝される時間にお部屋へお連れし、寒がりの方には湯たんぽを使用していただいたり、室温に配慮し気持ちよく眠る事ができるように支援しています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者様の疾病・内服・副作用の等の理解に努め、内服記録を薬剤保管庫に管理し、職員がいつでも確認できるようにしている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・家事のできる方には、職員と共にしてもらい、歌を歌ったり、買い物や散歩に行ったり、個々の利用者様の張り合いや喜びがある日々を過ごしていただけるように、できるだけ支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	穏やかな天気の日には、庭のベンチにて外気浴や歌を歌ったり、おやつを食べたり、また、ホーム周辺を散歩に出かけたりとできるだけ戸外に出るよう支援しています。	花見や紅葉狩り、初詣など季節に合わせて外出を行っている。職員が「今日はどこに行きましょうか?」と声をかけて急遽、自然に恵まれた近隣のドライブを楽しむこともある。入居者の希望に沿って、買い出しと一緒に出かけすることも多く、和気藹々と洋服を選んだり、外食をしたり楽しい時間を持つことができている。外出が困難な入居者も中庭やホーム周辺で季節を楽しんでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、お金を所持して頂き買い物等で使えるように支援しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいと希望があれば、本人に代わり電話をかけ取次して話をさせていただいています。手紙を出す希望は無いが、手紙が届いた時には、その方の状態に応じ代読の支援をしている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はもとより庭にベンチを置き、利用者様の居場所の確保ができており、玄関・居間・廊下・居室等は、特別な備えを感じる事なく、一般家庭を思わせるような造りである。	家庭的な落ち着いた雰囲気のある共用空間に、季節に合わせた飾り物や季節の花を飾っている。広い和室は床の間や欄間など一般家庭と違わぬ作りで、寝転んで寛いだり洗濯物たたみなどをして家庭生活の継続が行われる空間となっている。中庭のベンチは美しい植栽を眺め、のんびりと日向ぼっこを楽しむ場所となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が個々に自由に過ごせるように、居間にソファを置いたりして工夫しています。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人の人生が滲み出ている。それぞれ棚・タンス・化粧品・写真を持ち込み、我が家として安心した居場所となるように配慮している。	お一人一人が馴染みの品を持ち込み自分らしい居室とされている。位牌や写真を持ち込まれる入居者もおられ、毎朝職員も一緒にお仏飯を上げ、手を合わせられることで、入居以前の生活の継続ができる居室となっている。乾燥対策に濡れタオルを使用して快適な居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までされていた食事の準備・洗濯物たたみ等や新聞折りをしてもらい、その方にあった生活ができるように支援しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とは何かまず各自で考えその集まった意見をまとめて新たに理念を設けて共に一緒に共有し理念の他に毎年スローガンを決め日々勤労しています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より古新聞などを分けて戴いたり敬老会には自治会をはじめ近隣住民の方を招待しています。消防訓練などにも自治会に参加して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の様子や活動を運営推進会議の中で情報公開し定期的にテーマに沿った勉強会を開催し知って頂けるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換の場としサービス向上に活かしています家族や地域の方とも気軽に意見交換ができ明るい雰囲気です。消防・警察などに声掛けし会議に参加して頂く事もあります。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡協議会の役員を職員がしており会議に毎回1~2名参加しており他のホームとも情報交換出来ている。推進会議にも広域圏組合の方が参加してもらえ関わりはある。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしないケアの取り組みを行っています。夜間のみ行動把握がつかめない利用者様についてはご家族了承のもとベッド柵に鈴をつけています。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の虐待防止の研修に参加しケア会議などで資料などを参考に職員全体で勉強しています。虐待に関する記事等が出た場合は回覧し虐待が見過ごされる事がないように注意を払い防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護・成年後見制度について学ぶ機会は外部研修の参加のみであり内部会議の中でも取り上げなければと思います</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には取締役・管理者が十分な説明を行い理解・納得を図っています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様や御家族に面会時に意見や要望等がないか伺っています。相談苦情の窓口や担当者を重要項目に明記し説明を行っています。利用者様が行いたい所には殆ど出かけたりにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>情報交換を行い職員の意見なども良いと思われる意見や提案は反映されています。毎月のケア会議時には業務に関する事や体調について職員間で現状の問題点や意見をきくようにしている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績・勤務状態の把握は行えています。経験年数や職員の努力等を把握したうえで給与水準の見直し条件の整備に努めています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加し個々に向上心があります。研修後にも報告書を作成し全員に回覧しています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修会や協議会の会議にも職員が参加し顔なじみの関係ができています。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所段階時に施設長・代表者が自宅など訪問し御本人や御家族より話を伺い安心して生活できるような関係作りに努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>御家族の状況等把握したうえで入所後も相談・要望・意見を伺いサービスの向上ケアプランに反映するように努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容による話し合いをケアマネをはじめ職員で支援の方針を決定し、その時に必要な対応を行っています。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的に家事や洗濯物たたみなどを手伝って下さり一緒にいる事で共に喜びあったり教わる事があったりと助け合ったりして日々の生活を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には報告などを行い、御家族にも御理解をして頂き御本人様が安心して生活できるように御協力を頂いています。行事報告や日常の写真をたずかるだよりとして送付しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば出来る限り要望に沿えるように支援しています。御家族を通し馴染みの人や御本人さんの友人等も面会にきて戴いたり出向いたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調や気分に合わせて全員でティータイムやレクリエーションの機会を設けて関わり支援しています。苦手な利用者様同士は職員が配慮しお互いが気持ちよく過ごして頂ける様に配慮しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも面会に伺ったり外部で御家族と会った場合も経過や相談出来る馴染み関係にあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本情報をもとにその人らしく生活出来るよう支援しています。意思疎通の困難な利用者様についてはちょっとした表情や動き等を観察し気持ちを汲みとれるように努めています。		

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの生活歴や生活環境・大切にしている事などはケアプランに反映しておりサービス経過の把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく快適に過ごしやすい環境等を整え支援しています。心身の状態に合わせたサービスが出来るよう日々努めています。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様とご家族の意見を反映し毎月の会議で見直しています。各担当者があることで状態の変化に合わせた介護計画の作成は出来ている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に行動・言動・心身状態を具体的に書くことで情報の共有サービスの統一チームケアを行っています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに対応して出来る限りの個別支援を行っています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は少なくこちらから出向く事が少ない。近所の方がたまに立ち寄られている。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>業務委託をし毎月往診があり利用者様への待ち時間の負担がなくなりちょっとした変化なども往診時報告を行っています。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は日頃の状態を報告し気づきがあればすぐに看護師に相談できる環境にあり、適切な看護や早期対応出来るように支援しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の場合は情報交換・治療状況を伺い治療の把握や医療機関から説明を受ける際は御家族と同席させて戴いています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様やご家族の意見を踏まえ職員が出来ることを話し合い主治医・ご家族・看護師・管理者で面談を行い納得した最期を迎えられるように話し合いが出来ている。今後は職員が見取りに対しての勉強などをスキルを上げなければならない。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急隊からの蘇生法講習を受けている。急変時や応急手当などはマニュアルがあり直ぐわかる所に置いている。また内部研修などで指導や助言を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を夜勤体制・日勤体制で年に2回実施しています。その際救急隊より蘇生法の講習をうけています。避難場所把握・非常時の持出品については備えているが自然災害訓練までは至っていません</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対して適切な言葉で対応できるように努めています。個人情報の取り扱いには十分配慮しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や行きたい所など普通の会話の中でさりげなく聞きだすような配慮を行っています。飲み物の温度や種類なども選択して戴き自己決定出来るように働きかけています。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせてその日の利用者様に合わせた支援が出来るよう取り組んでいます。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行かれる方や服装もその日の気分や好みに合わせて支援しています。リビングに来られる際は身だしなみを整えた状態で過ごして戴けるようにしています。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を手伝って戴いたり作る楽しみや更に自分で作った味を堪能する等個人に好きな物を尋ねたり人気の献立を飛び入りで組み込んだり各テーブルでホットプレートを使用して全員で焼きそばやお好み焼き等を作って食事が楽しみになるように日々取り入れています。

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の状態に合わせた形態や量を提供し好き嫌いに合わせてメニューを一部変更したりする事もあります。食事・水分量を把握し健康管理出来るように支援しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後利用者様の状態に合わせて介助を行っています。夕食後は洗浄液につけて口腔内の清潔に努めています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>食前・後は習慣として声かけを行っています。排泄パターンを把握する事で失敗が減らせるようさりげなく声かけに配慮し努めています。その人にあつたパットやオムツなどで対応しています。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分は確実に摂取して戴けるように温度の変化や味の変化など工夫しています。センナ茶なども取り入れて各自の排便コントロールを行っています。1日1回を体操等で体を動かしてもらうように支援しています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は週3回予定していますが体調や気分がすぐれない時は時間をおいたり入浴剤など使用し変わり風呂などで楽しみになるように工夫しています。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間は個人差があり好きな時間に各自戻られています。就寝前にはあつたかい飲み物を提供しています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者様の疾病・内服・副作用などの理解に努め服薬記録やお薬説明書等はいつでも確認できるようにしています。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>調理の下ごしらえや洗濯物たたみなどの手伝い一緒にすることで役割を持っていただき個々の利用者が張り合いや特技を活かして楽しく生活出来るように支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者様のリクエストを聞き出し計画を立て実行しています。寝たきりで外出しない利用者様もできる限り職員体制を整え出かけています。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る利用者様についてはお金を所持されており御家族の了承の上で定額持たせている方については買い物や散歩の際は好きな物を購入して戴いています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話かけたいと希望あれば電話を使用されています。はがきについても年に2回御家族や御友人に書いていただき書けない方については代筆しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じられるように時期に応じた模様替えや植物をテーブルに置くなどの工夫を行っています。共用の空間は次に使用される方が気持ちよく使用出来るように配慮しています。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日当たりのよい場所にはソファを設置し利用者が日光浴をされたり読書をされたりとくつろげる空間を工夫したり座敷で寝ころんでテレビを見て戴けるように工夫しています。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人の生活がにじみ出ておりそれぞれの棚に神様など奉られている方もいらっしゃいます。我が家として個性がある空間であります。快適に安全に配慮した配置などを状態に応じて対応しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりに位置やトイレの場所が分からなくなった利用者様に応じて表記してあるラベル等が小さい時には職員が手作りしたりと自立出来るようさりげない支援を行っています。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない